

ギボウシラン *Liparis auriculata* Blume

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。山地性のラン科植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 15~30cm、基部はふくらんで偽球茎となり、1~2 年残存して横に並ぶ。葉は茎の基部につき、鞘状のものを除き 2 個、葉身は広卵形、長さ 5~12cm、幅 3~8cm、先端は急鋭頭、基部は円形~浅い心形でやや鞘状に茎を抱き、葉脈はくぼむ。花期は 7~8 月、花は花茎の上部に十数個つき、通常白色、苞は披針状 3 角形、長さ約 2mm である。がく片は線状楕円形、長さ 5~6mm、先端は鋭頭、側花弁は線形で鈍頭、唇弁は倒卵状くさび形、がく片とはほぼ同長で円頭、舷部中央に暗紫色の着色部がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 52809, 1994-7-23)、2 豊根 (小林 38398, 1992-7-25)。

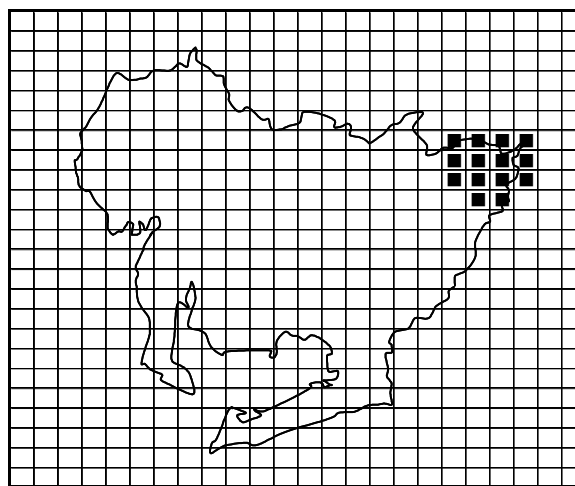
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および済州島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

現在のところ、2 カ所で少数株が確認されている。他にも 1 カ所あったが、山草愛好家に持ち去られたらしく、消滅した。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、葉の脈がくぼんで、ギボウシの葉に似ているからである。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.50, 平草本 I p.219, 平新版 1 p.212, 環境省 p.354, SOS 旧版 p.112.